

事業名称
文化振興施設管理事業

目的	文化施設や郷土の作家作品等を後世に引き継ぐとともに、市民の主体的な文化活動を積極的に推進するため、文化施設環境を整備する	対象	市民等
事業概要	○総合文化センター管理事業 ・施設の有効利用及び利用者への安全確保に努め、市民が利用しやすい文化施設環境の整備を図った。 ○朝倉文夫記念館公園管理事業 ・市民が利用しやすい文化施設環境の整備、朝倉文夫の作品・資料の管理、収集等を実施。また、市民が朝倉文夫作品への理解を深めるためケーブルテレビでの作品紹介を開始した。 ○徳田白楊記念館管理事業 ・白楊会に指定管理を委託している。 ○神楽会館管理事業 ・施設の有効利用及び利用者への安全確保に努め、多目的ホールの貸し館業務を行った。 ※24年度より神楽会館管理事業を含む		

41

2. 指標設定

成果指標	指標名	年間利用者数	目標年度	27	指標の設定理由			
	数値	74,500人			総合計画/後期基本計画において、基本施策(5-2-2)の目標としているため			
活動指標	指標	a	総合文化センターの利用者数	b	朝倉文夫記念館の来館者数	c	神楽会館の利用者数	d
	数値	目標	63,000人	目標	3,500人	目標	8,000人	目標

3. 実績(上段・実績/下段・達成率)

成果指標名	単位	H22	H23	H24
年間利用者数	人	61,139 人	53,116 人	67,777 人
	%	91.9 %	79.8 %	91.0 %

活動指標名	単位	H22	H23	H24
a 総合文化センターの利用者数	人	56,625 人 89.9 %	48,895 人 77.6 %	54,462 人 86.4 %
b 朝倉文夫記念館の来館者数	人	4,514 人 129.0 %	4,221 人 120.6 %	3,410 人 97.4 %
c 神楽会館の利用者数	人	— —	— —	9,905 人 123.8 %
d		— —	— —	— —

4. 課題と対応

課題
総合文化センター、朝倉文夫記念館ともに経年劣化により修繕箇所が多くなっている。また、文化施設としての利用者、来館者が減少傾向にある。
対応(改善点等)
総合文化センターは、指定管理導入に向け準備を進める。記念館は集客を図るため、記念館ファンクラブ会員と植栽物の植込・手入等を実施。

5. 事業費・・・H22～H24(決算額)、H25(予算現額)

決算額(千円)		H22	H23	H24	H25
うち経常経費		98,263	175,283	71,572	81,816
		77,470	66,476	70,860	81,044
財源内訳	国費	16,212	74,306		
	県費				
	市債				
	その他	10,775	42,176	10,046	8,628
	一般財源	71,276	58,801	61,526	73,188
	うち経常	66,695	56,464	61,078	72,416
事業費に係る人件費		14,453	14,190	14,169	19,179
事業費に係る人役		3.30	3.30	3.30	4.40

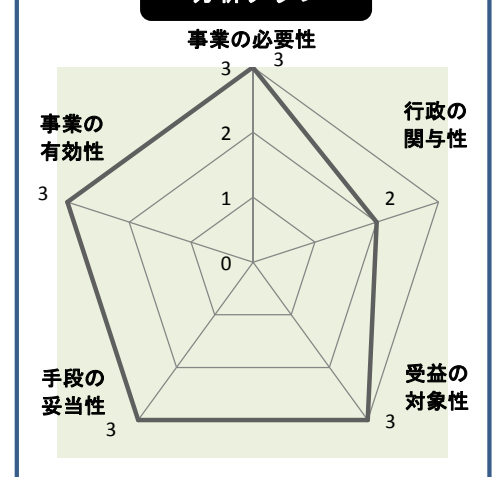
6. H26年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
総合文化センターは、指定管理者へ移行予定

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 文化芸術の提供、郷土芸能の伝承の場として必要な施設である。郷土作家の貴重な作品を財産として管理し後世に引き継ぐことは重要である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	2 文化センターの施設管理と、記念館の作品以外の公園管理は民間でも可能である。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 市民が利用する施設
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 市民が利用しやすい文化施設利用環境を維持するための手段である。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 1施設を除き前年度を上回った。

分析グラフ



8. 内部評価委員会評価(委員会評価)

事業の方向性	評価内容
継続	市民との協働による施設管理を図り、公共施設の見直し方針に基づく進捗管理を進めること。(エイトピアの指定管理等)